

特集

「2018 春スキーの集い」

スキルアップ研修会開催

広報部

復活5年目、現在の名称に変更して2年目を迎えた「スキルアップ研修会」が、4月6日（金）～8日（日）までの3日間、ニセコグラン・ヒラフスキー場を会場に開催されました。

当協会が道連の協力団体として運営責任を負い、2年目を迎えた今年は過去最大の41名の参加を頂き、3名のSAJ女子デモを招聘し、盛大な研修会となりました。



開会式風景

空模様は、初日・2日目と小雪・曇り、最終日にようやく薄日の射すスキー日和に恵まれ、千米台は粉雪、八百米台から下は湿雪のしまった状態と絶好のコンディションの中、参加者の皆さんは女子デモの指導で、研修テーマと各人のスキルアップを目指し、年齢を感じさせない元気な滑りを見せてくれました。

昨年、研修会の名称を変更した効果が表れたのか、楽しい懇親会の噂が広まったのか、40名を超える研修会となりました。リピーターの参加者が半数以上を占める中、平均年齢は64.5歳、最高齢は85歳、若手は25歳、女性の参加者は昨年より3名減の8名となりました。

班編成は各班14名ずつの3編成、講師は日替

わりのローテーション制で、3日間で全コーチに指導してもらえるシステムとなっています。

毎年参加の方が増え、お互いの安否確認をする和気藹々とした雰囲気は、まるで「同窓会」のような温かさが感じられる「春スキーの集い」となりました。

初日は、低く垂れこめた雲の中、ホテルニセコアルペン前のゲレンデにて開会式が行われ、三浦総務主任の司会進行でスタート。

責任者挨拶では、登山道連教育本部長から大勢の参加者にお礼が述べられ、「3日間、有意義な研修とケガのないよう頑張ってください」と激励の言葉があり、協力団体挨拶では、藤島道協会会長が道連、支援して頂いた関係各位と参加者の方々に御礼を述べ、3日間の健闘を祈念。

来賓の佐藤グランヒラフ副統括総支配人の挨拶のあと、土田主任講師から挨拶と3名の講師（大川奈々・大場優希・小森彩未SAJデモ）の紹介があり、恒例の記念撮影の後、センターフォーリフトで八百米台へ。ここで各班ごとに生存確認写真を撮影後、3名のデモによるデモンストレーションを見学しました。



デモ紹介をする土田主任講師

視界不良の中、ザラメと粉雪が入り混じったフリココースとアルペンコースの斜面で、小回り、大回り、総滑と見事な演技を披露し、参加者からは感嘆の声と、大きな拍手が送られました。この後、各班ごとに実技研修に移り、16時から理論研修が行われました。



スタート前の小森・大川・大場デモ（左から）

今回、理論担当の土田主任講師の職業が、外科医という事もあって、理論が始まる前に冒頭からいきなり「マダニ」の外科的処置の講義から始まり、参加者は意外な展開にかたずを呑んで食い入るように画面にくぎ付け！「マダニはこれで挟んで回して捕ると頭から抜き取ることができます」と、プラスチック製の小さな釘抜き状の器具を説明。全員の眠気を吹き飛ばして、本題に入るという見事な掴みを披露。

この研修会は毎回ユニークな講義が好評で、参加者の皆さんも楽しみなプログラムの一つだと、伺ったことを思い出した一幕だった。



眠気も冷めて画面に見入る参加者

18時から、この研修会のメインである懇親会が始まりましたが、従来は2日目の夕食時に

企画されていたものを、見知らぬ同士が和やかに研修するためには、初日に開催した方が効果があるのではないかという役員一同の提案により、即、実現されたものである。

レストラン「スラローム」のオープニングは、総務主任の司会でスタート。登山道連教育本部長から「一番大切な夜の講習会の始まりです。明日に影響のないよう大いに楽しんでください」と挨拶があり、藤島道協会会長からは「人との絆をしっかりと作ってください」と一言があり、「乾杯！」の音頭で宴の席は開かれました。



挨拶と乾杯の音頭は道協会藤島会長

今年も、西田先生（札幌別）の粋な計らいで、地元倶知安町の「二世古酒造」から「どぶろく」の差し入れがあり、先生の紹介で同酒造の杜氏である「水口氏」が来場され挨拶を頂き、今年度金賞をとった新酒が差し入れされ、会場は大いに盛り上がりました。

次に、時兼先生（函館）が自社で扱っている畜産製品の詰め合わせを福引の景品として提供され、当たった参加者の皆さんは、こぼれんばかりの笑顔を見せてくれました。

宴もたけなわとなる頃、自己紹介タイムに入り、トップを切って1班の講師、北見連盟の大川デモがユーモアたっぷりに「そだねエ〜北見」をPR。3班の若手班、中国からの留学生「方君（ほうくん）」が、スキーにハマった気持ちを元気に叫び、全員でスキーソングを合唱し、締めめのシーハイルと乾杯は、今シーズンで引退を表明した大川デモが涙、涙の乾杯！！・・・

全員で「蛍の光」を合唱して一次会は終了。

恒例の二次会は、山岸先生（札幌）差し入れ